



くらし、福祉第一へ

全 力

すべての必要な子どもに
良質な保育を
区立を中心に
認可保育園増設を

いつまでも
住み続けられるまちへ
特別養護老人ホームの
増設を

だれもが安心して払えるよう
国保料の引き下げと減免制度の周知を
75歳以上の医療費無料化を

子育て安心へ支援強化を
小中学校給食の無償化を
高校生までの医療費負担の無料化を

新しい年みなさんとともにがんばります

昨年は、憲法を生かし、守る市民と野党の共同が前進し、国民の声が生きる政治へと希望が広がりました。

区政では、党区議団のねばり強い調査と論戦で、民間保育園の保育従事職員の宿舍借り上げ助成制度や耐震改修助成制度の拡大、感震ブレイカー設置助成などが実現しました。

長谷部区政は、女性福祉資金貸付制度を廃止し、要支援高齢者の介護サービスの切り捨て、障がい者の福祉タクシー券の削減など、福祉は切り捨てられる一方で、渋谷駅再開発事業への税金投入や区庁舎建て替え計画、宮下公園整備計画などで区民の土地を大企業のために差し出しています。

新年も党区議団は、区民の切実な願いを届け、逆立ち区政を転換し、くらし・福祉最優先の区政実現へ力を尽くします。

日本共産党
渋谷区議団



区議団長／文教委員長
庁舎問題特別委員

すがの茂



区議団幹事長／総務委員
庁舎問題特別委員

五十嵐千代子



区民環境委員
自治権確立特別委員

トマ孝二



福祉保健委員
交通公有地問題特別委員

牛尾まさみ



福祉保健委員長
五輪パラリンピック対策特別委員

田中まさや



文教委員
交通公有地問題特別委員

秋元ひでゆき

日本共産党
渋谷区議団 ニュース

2017年元旦号

渋谷区渋谷1-18-21 渋谷区役所第2庁舎2F
☎ 3463-1038 FAX 5458-4963

日本共産党渋谷区議団へのご意見・ご要望を、ぜひお寄せください。

●ホームページ <http://jcp-shibuya.jp/>
●Eメール info@jcp-shibuya.jp

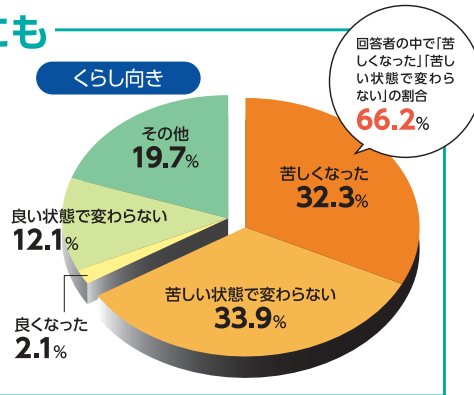
くらしの願いびっしり 区民の声に心寄せ 実現へ

2016くらし・区政についてのアンケートにご協力ありがとうございました

「くらしが苦しい」が66%にも

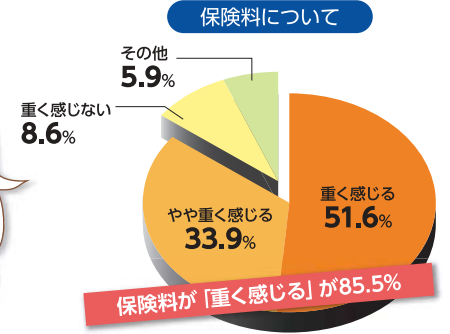
党区議団が、毎年とりくんでいる「くらし・区政についてのアンケート」では、66%が「くらしが苦しい」と回答しています。区民のくらしが悪化している今こそ、政治の役割、税金の使い方が問われます。

党区議団は、アンケートに託された区民の声をしっかり受け止め、自治体本来の役割である「くらし、福祉第一」の区政の実現めざし、切実な要求実現に全力をあげます。



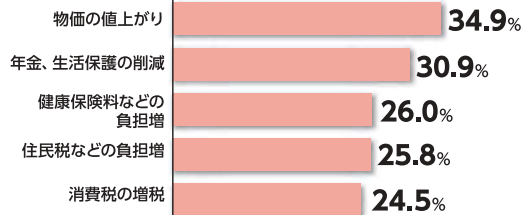
「お金が心配で、病院に行くのをガマン…」 国保料の引き下げ、窓口負担の軽減を

- 声**
- 国保料の負担のために働いているのかと思うほど高額になっています。
 - 高齢になるにつれ、医療費が年々高額になり、医者に行くのをがまんしている時もある。
 - 高い保険料を払っているのに、病気になっても高い料金を払わなくてはならないのはつらい。病気になったら手遅れで死を待つしかない気がする。
 - 賞金は上がらないし年金は下がっています。年齢的にも病院の回数が増えたので保険料が上がるのは本当に困ります。



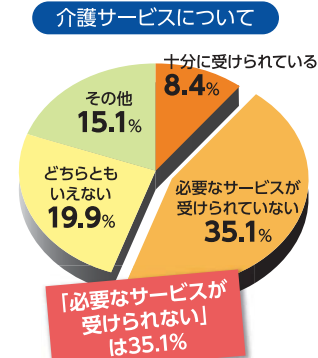
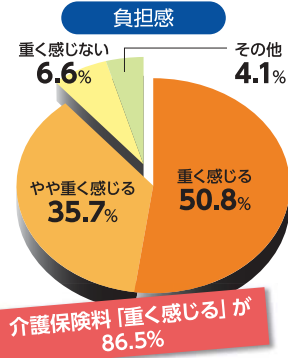
物価高、年金削減、高い保険料… くらしの不安ひろがる

くらしが苦しい原因



- 声**
- 収入が少ないため、預金の切り崩しの生活をしている。
 - 貯金ができない。職を失ったらホームレス。
 - 子どもにかかる教育費。成人するまで支えられるか不安。
 - もしもの時の葬儀代も出せないのでは心配。
 - 給料は1円も上がらないのに負担ばかり増える。子どもが3人いるので教育費などもかかり、毎月ギリギリの生活。

介護保険料重く、必要なサービスは受けられず だれでも安心できる介護を

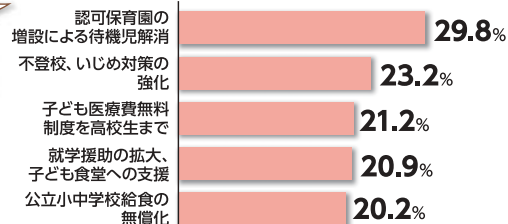


- 声**
- 年金は増えないのに介護保険料など負担増で生活は厳しい。年寄り早く死ぬということか。
 - 老老介護で共倒れそうです。
 - 特養とグループホームを申し込んでいて待機年数が長く、今はデイとショートステイを利用していますが、母の認知も進んでいるので困っている。
 - 96歳で亡くなった母は、最後まで特養に入らず病院で高額な支払いをしなければならぬままでした。何のための介護保険か。
 - 介護が必要な人に、介護が得られていません。介護の予算、要員確保が必要です。

- 声**
- 子どもを預かる場所がないので働けない。
 - 保育園に全く入れない。一時保育の電話予約もつながりにくすぎる。
 - 認可基準を満たした保育所を増設すべきである。区役所等は、そのあとで良い。区民の目線で実行してほしい。
 - 「質は低下しても」ほとんどない。子どもの事故発生につながる。認可基準を満たすのは当たり前。
 - 過労にならない働き方を保育士に保障してほしい。
 - 民間の保育士の給料が安すぎる。
 - 公立小中学校の制服が高すぎることにとても腹が立つ。
 - 公立保育園の拡充、小規模クラスの学校、教育費、医療費の無償化、子どもの格差の解消を急務。
 - 教育、子どもに予算を使って。公共事業や目先の派手な催しに無駄遣いしていて腹が立つ。
 - 子どもが高校生になり、病院に行かせにくい。

認可保育園増設、不登校・いじめ対策強化、経済的支援強化… 子育て支援の充実を

強化してほしい子育て支援は…



2017年度渋谷区予算要望書提出



日本共産党渋谷区議会議員団は、「アンケート」でお寄せいただいた区民の声をはじめ、多くの団体との懇談でお寄せいただいた要望や意見などをもとに、党区議団として1051項目にまとめた2017年度渋谷区予算要望書を、昨年10月28日、長谷部区長に提出しました。

直下型地震から、いのちとくらしを守る

日本共産党 区議団の提案

- 予防重視の防災計画へ
区の責任を明確にする
- すべての区有施設を直ちに耐震化する
- 木造住宅の耐震補強工事
費助成額を引き上げる
- 障がい者、高齢者などの
福祉避難所を、地域ごとに整備する
- 帰宅困難者対策は、事業者任せにせず、国、都と連携して強化する

昨年は4月に熊本地震が発生し、あらためて直下型地震への備えの大切さを痛感しました。党区議団は、9月に熊本地震の現地視察を行い、そこで得た教訓を生かすために、11月に「熊本地震視察報告会」を開催しました。

直下型地震からいのちや財産を守るためには、予防重視の「倒れにくく燃えにくい、福祉のまちづくり」が、特に重要です。

私たちは、毎回の議会で、区民のいのちとくらしを大震災から守るために防災対策の強化を提案してきました。



熊本地震視察報告会

党区議団が、11月6日に開催した報告会では、講師の末延渥史さんが、「都市型スーパー災害に備える」と題して講演。その中で、区が責任を持ち、地域ごとの特徴に応じた防災対策が必要と提言しました。また、いま想定していない高層ビルなどの長周期地震動や地下街、地下鉄、鉄道などの被害も想定し対策をとることが求められると指摘しました。党区議団からは、牛尾まさみ議員が、渋谷区の課題と区議団の政策を報告しました。



感震ブレーカー設置助成が実現へ

～党区議団の提案実る。さらに全地域へ～

通電火災対策に効果がある「感震ブレーカー設置助成」が、実現することになりました。党区議団は、2014年第4回定例区議会以来、区長に対して、再三実現を迫ってきました。「倒れにくく、燃えにくい街」へ、耐震改修助成制度の拡大とともに感震ブレーカー設置助成の実現は一步前進です。防災対策の抜本的強化を求めて、引き続き全力を尽くします。

第4回区議会でのトマ孝二議員の質問（要旨）

中央防災会議では、初期消火と「感震ブレーカー」による火災対策をはかることによって、首都直下型地震の場合、火災死者数が95%も減少すると指摘しています。区内では、葛飾、品川、目黒、世田谷、足立、台東、杉並、中野の8区で「感震ブレーカー」の設置助成を開始しています。全区的に新年度から、実施すべきです。

長谷部区長の
答弁（要旨）

木造住宅密集地域のうち、特に緊急性の高い地域である不燃化特区の指定を受けた本町2丁目から6丁目までの地区の木造住宅について、感震ブレーカー及び感震コンセントの助成をしております。

感震ブレーカーとは？

感震ブレーカーは、地震を感知する信号が震度6等の設定値以上になった場合に分電盤のブレーカーを遮断して電気をとめる装置です。一般的なブレーカー（漏電がある場合のみ自動遮断）では防げない電気火災の防止効果があります。感震コンセントは、地震感知器がコンセントに内蔵されているタイプ。